

平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査 結果分析票

学校名: 志木市立宗岡第二中学校 第 3 学年			
項目	成果	課題	改善策
国語	全体的に県平均を下回っていたものの、学力のレベルは一段階伸びていた。	言葉の知識・理解に関する正答率が低く、語彙が乏しいことがわかる。また、古文・漢文に関して正答率が10%以上下回っていたり、無解答率が高い設問が多かった。	語彙を増やす指導や、一つ一つの言葉を考える癖をつけさせたい。また、古文・漢文に関して、まず苦手意識をなくすことや、基礎的なことも徹底して定着させる指導の工夫を心がけたい。
算数 数学	数学については、本校のみならず2極化傾向にあるが、その中で記述式の正答率が平均を上回っているのは成果としてあげられる。	32の質問に対して県平均を上回ったのは図形2、関数1、資料の整理1、合同証明1、確率1の計6問で、後は平均又は下回るものが多く見られた。全国学力学習状況調査と同様に読み取る力が弱い。	技能や知識については比較的理解されているが、数学的な見方や考え方が、弱点でもある。今後グラフや式、文章から、分かることや読み取る力をつけることを課題としたい。
英語 中学校	全体的に県平均を下回る結果となってしまったが、ある場面での会話分の聞き取りに関しては県平均を上回ることができた。	県平均を上回った質問は聞き取り問題の「場所をたずねる質問に対する答えを選ぶ問題」「交通の手段をたずねる質問に対する答えを選ぶ問題」「穴埋め問題(前置詞)」の3問で、残りの問題はわずかだが平均を下回る結果となった。大きく下回ったのは「文を組み立てる問題」と「読み解く問題」と「英作	聞き取る力はあるが、その文を読み解いたり、組み立てたりといったことが苦手な生徒が多い。今後はまとまりのある文を読み取る力と自分の力で英文を書く力をつけていきたい。
児童 生徒 質問 紙	自己肯定感が高く、将来についても漠然ながら考えている生徒が多い。また、勉強で困ったときは友達に聞くが5割、先生に聞くが6割となっており、さらに家族と学校の話をするのもわずかであるが県平均を上回ることから、対人関係においても良好であると言える。	・勉強に対してあまり前向きではない生徒が多い。・平日、携帯電話やスマートフォンを利用している時間が県平均よりも多い。	・グループ内での学習活動を増やし、教え合うことで定着を図る。・携帯電話、スマートフォンの使用のルールを決めていない家庭が多いことから、保護者会などで呼びかけを行ってきたい。